

ダイワDBモメンタム 戦略ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／資産複合	
信託期間	2017年8月23日～2027年8月19日	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	為替ヘッジあり	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・モメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	為替ヘッジなし	イ. ケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラスト・モメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」の受益証券（円建） ロ. ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの受益証券
	ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	円建ての債券
組入制限	当ファンドの投資信託証券組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等とし、原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。	

運用報告書(全体版) 第17期

(決算日 2026年2月19日)

(作成対象期間 2025年8月20日～2026年2月19日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金への配分を変更しながら、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざしております。当作成期につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先（コールセンター）
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

<2721>
<2722>

為替ヘッジあり

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			公社債組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
13期末(2024年2月19日)	9,684	50	4.5	—	99.2	4,394
14期末(2024年8月19日)	10,077	350	7.7	0.0	98.1	3,841
15期末(2025年2月19日)	10,418	550	8.8	0.0	98.0	3,814
16期末(2025年8月19日)	10,504	400	4.7	0.0	97.5	3,726
17期末(2026年2月19日)	13,188	650	31.7	0.0	98.0	3,787

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

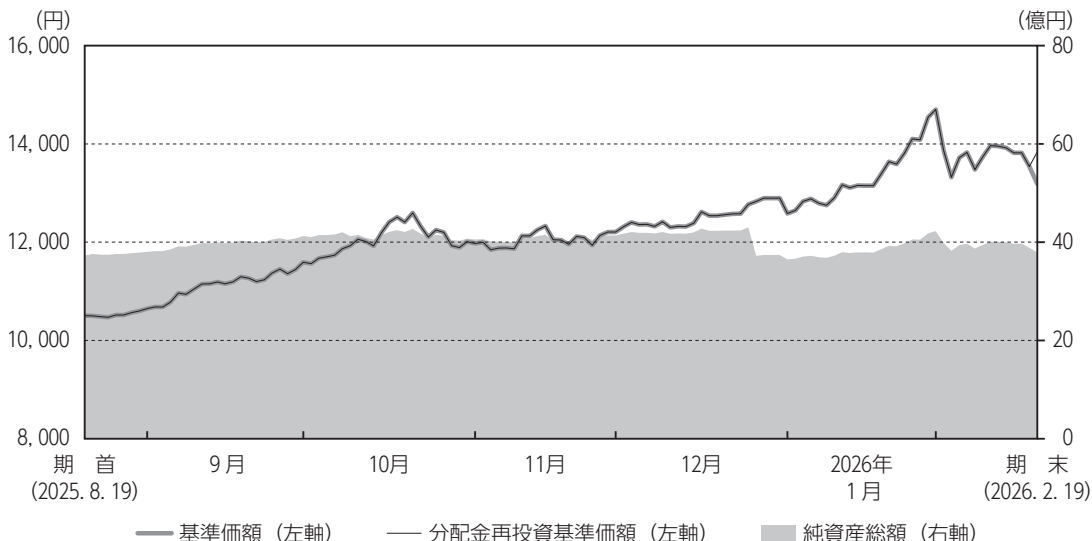
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 分配金再投資基準価額は、当学期期首の基準価額をもとに指数化したものです。

- * 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- * 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：10,504円

期末：13,188円（分配金650円）

騰落率：31.7%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

主に「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」の上昇がプラス要因となり、基準価額は上昇しました。「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、主に金や米国株式の上昇がプラスに寄与した一方で、為替ヘッジコストがマイナス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）：オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 組 入 比 率
	円	騰 落 率 %		
(期首)2025年 8月19日	10,504	—	0.0	97.5
8月末	10,649	1.4	0.0	98.6
9月末	11,593	10.4	0.0	99.2
10月末	11,974	14.0	0.0	98.5
11月末	12,207	16.2	0.0	98.5
12月末	12,583	19.8	0.0	95.8
2026年 1月末	14,700	39.9	0.0	99.3
(期末)2026年 2月19日	13,838	31.7	0.0	98.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

（2025. 8. 20 ~ 2026. 2. 19）

■米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首より、各国に対する相互関税の引き下げなど通商交渉が進展したことに加え、2025年9月中旬のFRB（米国連邦準備制度理事会）の利下げ決定などを受けて、上昇しました。さらに10月下旬にかけては、成長期待が高まったAI（人工知能）・半導体関連企業が相場上昇をけん引し、史上最高値を更新しました。11月には、政府機関の一部閉鎖の影響が嫌気されて下落しましたが、同月下旬には利下げ観測が高まったことを好感し、反発しました。12月も、FRBの利下げ決定や流動性供給の開始、半導体関連企業の好業績などを好感して上昇しました。2026年1月以降は、経済指標の改善やインフレの沈静化が好感された一方で、「AI脅威論」の台頭を受け、情報サービスやソフトウェア関連の企業が急落しました。その後、おおむね横ばいで推移する中、当作成期末を迎えました。

■米国長期金利

米国長期金利は低下（債券価格は上昇）しました。

米国長期金利は、当作成期首より、経済指標の鈍化などを背景に低下しました。その後は、FRB（米国連邦準備制度理事会）が3会合連続で利下げを実施する中、短中期の金利は低下しましたが、米国経済の底堅さを示す指標などを受け、長期金利は上昇しました。2026年に入ってから、底堅い経済指標を受けた利下げ観測の後退や、日本の財政悪化懸念による長期・超長期金利上昇の影響などから、米国長期金利は上昇しましたが、当作成期末にかけては、小売売上高やCPI（消費者物価指数）が市場予想を下回ったことなどから年央以降の利下げ観測が高まり、長期金利は低下しました。

■金市況

金価格は上昇しました。

金価格は、当作成期首より、地政学リスクの高まりや関税政策への懸念、FRB（米国連邦準備制度理事会）の金融緩和期待、そして中央銀行による継続的な購入が主要な上昇要因となりました。2026年に入ると、トランプ米国政権の関税発動や地政学的緊張の高まりを背景に、金価格はさらに上昇しました。

■米ドルキャッシュ

FRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利の誘導目標を3.50~3.75%とし、米ドルキャッシュ市況は緩やかに上昇しました。

■短期金利市況

日銀は、政策金利である「無担保コールレート（オーバーナイト物）」を0.75%程度に引き上げました。米国では、F R B（米国連邦準備制度理事会）が政策金利の誘導目標を3.50～3.75%に引き下げました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資します。また、「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2025. 8. 20 ~ 2026. 2. 19）

■当ファンド

「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資しました。「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2025年8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	2026年1月末
米国株式	26.8%	26.8%	26.9%	26.9%	26.9%	30.0%
米国長期金利	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%
米ドルキャッシュ	3.2%	3.2%	3.1%	3.1%	3.1%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2025年8月20日 ～2026年2月19日	
当期分配金（税込み）	(円)	650
対基準価額比率	(%)	4.70
当期の収益	(円)	650
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	3,238

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 0.69円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 3,315.16
(c) 収益調整金	281.39
(d) 分配準備積立金	291.70
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	3,888.95
(f) 分配金	650.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	3,238.95

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資します。また、「モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（日本円クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

また、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2025. 8. 20～2026. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	73円	0.596%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は12,279円です。
(投 信 会 社)	(24)	(0.194)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
(販 売 会 社)	(48)	(0.388)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(2)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	74	0.600	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

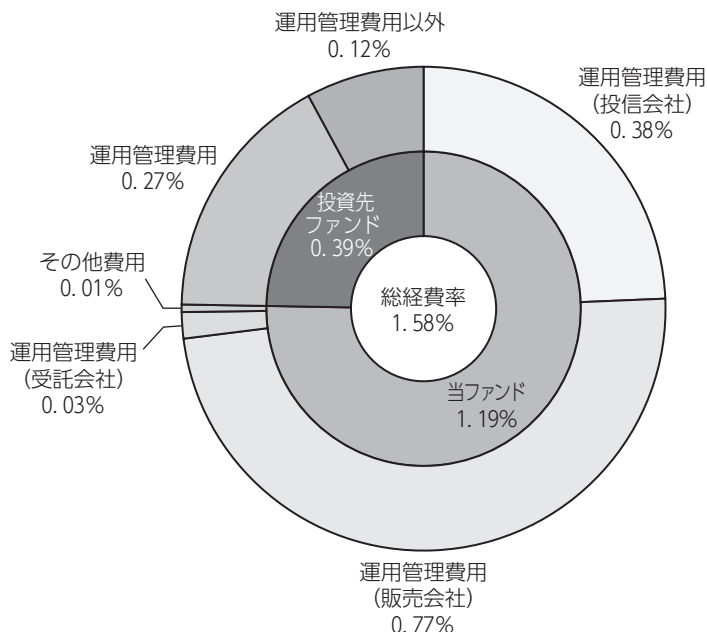
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.58%です。



総経費率 (① + ② + ③)	1.58%
①当ファンドの費用の比率	1.19%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.27%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.12%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、投資先ファンドの費用には、担保付スワップに係る費用を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）

■売買および取引の状況 投資信託受益証券

（2025年8月20日から2026年2月19日まで）

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
		千口	千円	千口	千円
外国 （邦貨建）	ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS（ケイマン諸島）	1,337.1362	216,000	7,264.42203	1,265,000

（注1）金額は受渡し代金。

（注2）金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

(1) 当ファンドにおける当作成期中の利害関係人との取引状況

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

(2) ダイワ・マネーアセット・マザーファンドにおける当作成期中の利害関係人との取引状況

（2025年8月20日から2026年2月19日まで）

決算期	当 期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D/C
区分	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	1,128	269	23.9	—	—	—
コール・ローン	45,550	—	—	—	—	—

（注）平均保有割合0.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ペビエーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 当作成期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期中における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券株式会社です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期		末
	口 数	評価額	比 率
	千口	千円	%
外国投資信託受益証券 （ケイマン諸島） ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND JPY CLASS UNITS	19,519.14851	3,711,312	98.0

（注1）比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

（注2）評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	1	1	1

（注）単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2026年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	3,711,312	92.8
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	286,380	7.2
投資信託財産総額	3,997,694	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年2月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	3,997,694,940円
コール・ローン等	286,380,643
投資信託受益証券（評価額）	3,711,312,340
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	1,957
(B) 負債	210,646,342
未払収益分配金	186,650,871
未払信託報酬	23,829,300
その他未払費用	166,171
(C) 純資産総額（A - B）	3,787,048,598
元本	2,871,551,874
次期繰越損益金	915,496,724
(D) 受益権総口数	2,871,551,874口
1万口当り基準価額（C / D）	13,188円

* 期首における元本額は3,547,819,564円、当作成期間中における追加設定元本額は74,477,910円、同解約元本額は750,745,600円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は13,188円です。

■損益の状況

当期 自 2025年8月20日 至 2026年2月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	203,276円
受取利息	203,276
(B) 有価証券売買損益	975,956,864
売買益	1,102,118,202
売買損	△ 126,161,338
(C) 信託報酬等	△ 23,995,471
(D) 当期損益金（A + B + C）	952,164,669
(E) 前期繰越損益金	83,765,879
(F) 追加信託差損益金	66,217,047
（配当等相当額）	（ 80,803,467）
（売買損益相当額）	（△ 14,586,420）
(G) 合計（D + E + F）	1,102,147,595
(H) 収益分配金	△ 186,650,871
次期繰越損益金（G + H）	915,496,724
追加信託差損益金	66,217,047
（配当等相当額）	（ 80,803,467）
（売買損益相当額）	（△ 14,586,420）
分配準備積立金	849,279,677

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しておりません。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	198,477円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	951,966,192
(c) 収益調整金	80,803,467
(d) 分配準備積立金	83,765,879
(e) 当期分配対象額（a + b + c + d）	1,116,734,015
(f) 分配金	186,650,871
(g) 翌期繰越分配対象額（e - f）	930,083,144
(h) 受益権総口数	2,871,551,874口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	650円

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

為替ヘッジなし

最近5期の運用実績

決算期	基準価額			公社債組入比率	投資信託 受益証券 組入比率	純資産額
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落率			
	円	円	%	%	%	百万円
13期末(2024年2月19日)	13,346	950	11.5	—	98.5	12,125
14期末(2024年8月19日)	14,126	400	8.8	0.0	98.1	12,163
15期末(2025年2月19日)	14,912	1,300	14.8	0.0	98.1	12,026
16期末(2025年8月19日)	14,886	700	4.5	0.0	98.0	11,511
17期末(2026年2月19日)	19,849	1,000	40.1	0.0	98.0	14,960

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

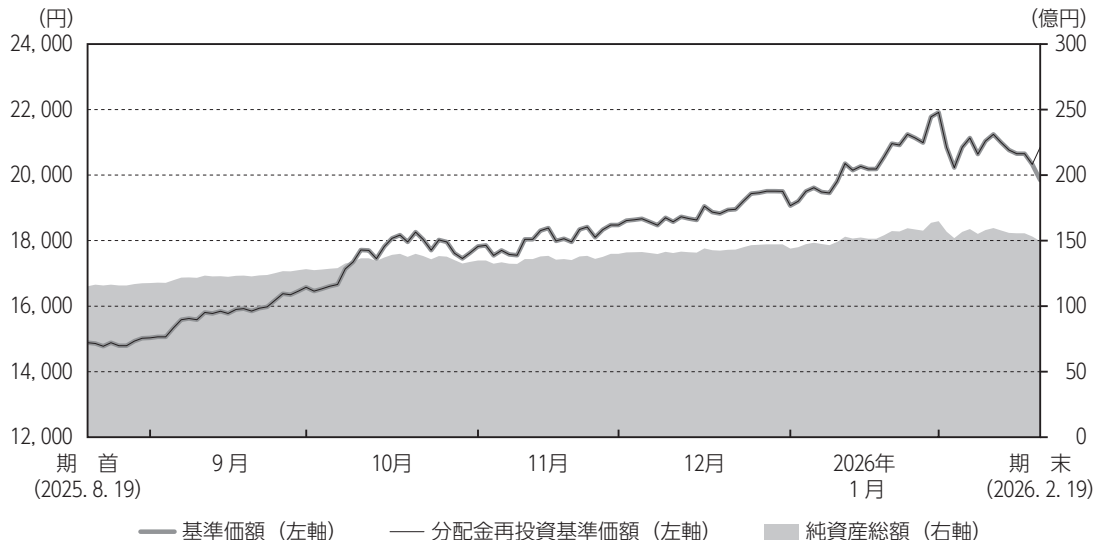
(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。

(注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



（注）分配金再投資基準価額は、当作成期首の基準価額をもとに指数化したものです。

* 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

* 分配金を再投資するかどうかについては、お客さまがご利用のコースにより異なります（分配金を自動的に再投資するコースがないファンドもあります）。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客さまの損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額・騰落率

期首：14,886円

期末：19,849円（分配金1,000円）

騰落率：40.1%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

主に「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」の上昇がプラス要因となり、基準価額は上昇しました。「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」については、DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行った結果、主に金や米国株式の上昇や米ドルが対円で上昇（円安）したことがプラス要因となりました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

※モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）：オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 率 組 入 比	投 資 信 託 受 益 証 券 率 組 入 比
	円	騰 落 率 %		
(期首)2025年 8月19日	14,886	—	0.0	98.0
8 月末	15,032	1.0	0.0	98.5
9 月末	16,576	11.4	0.0	98.4
10月末	17,822	19.7	0.0	99.2
11月末	18,476	24.1	0.0	97.8
12月末	19,066	28.1	0.0	95.5
2026年 1 月末	21,914	47.2	0.0	99.1
(期末)2026年 2月19日	20,849	40.1	0.0	98.0

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

■米国株式市況

米国株式市況は上昇しました。

米国株式市況は、当作成期首より、各国に対する相互関税の引き下げなど通商交渉が進展したことに加え、2025年9月中旬のFRB（米国連邦準備制度理事会）の利下げ決定などを受けて、上昇しました。さらに10月下旬にかけては、成長期待が高まったAI（人工知能）・半導体関連企業が相場上昇をけん引し、史上最高値を更新しました。11月には、政府機関の一部閉鎖の影響が嫌気されて下落しましたが、同月下旬には利下げ観測が高まったことを好感し、反発しました。12月も、FRBの利下げ決定や流動性供給の開始、半導体関連企業の好業績などを好感して上昇しました。2026年1月以降は、経済指標の改善やインフレの沈静化が好感された一方で、「AI脅威論」の台頭を受け、情報サービスやソフトウェア関連の企業が急落しました。その後、おおむね横ばいで推移する中、当作成期末を迎えました。

■米国長期金利

米国長期金利は低下（債券価格は上昇）しました。

米国長期金利は、当作成期首より、経済指標の鈍化などを背景に低下しました。その後は、FRB（米国連邦準備制度理事会）が3会合連続で利下げを実施する中、短中期の金利は低下しましたが、米国経済の底堅さを示す指標などを受け、長期金利は上昇しました。2026年に入ってから、底堅い経済指標を受けた利下げ観測の後退や、日本の財政悪化懸念による長期・超長期金利上昇の影響などから、米国長期金利は上昇しましたが、当作成期末にかけては、小売売上高やCPI（消費者物価指数）が市場予想を下回ったことなどから年央以降の利下げ観測が高まり、長期金利は低下しました。

■金市況

金価格は上昇しました。

金価格は、当作成期首より、地政学リスクの高まりや関税政策への懸念、FRB（米国連邦準備制度理事会）の金融緩和期待、そして中央銀行による継続的な購入が主要な上昇要因となりました。2026年に入ると、トランプ米国政権の関税発動や地政学的緊張の高まりを背景に、金価格はさらに上昇しました。

■米ドルキャッシュ

FRB（米国連邦準備制度理事会）が政策金利の誘導目標を3.50~3.75%とし、米ドルキャッシュ市況は緩やかに上昇しました。

■米ドル／円為替相場

米ドルは対円で上昇（円安）しました。

米ドル対円為替相場では、当作成期首より、おおむねレンジでの推移が継続しましたが、2025年10月以降は、自民党総裁選挙の結果を受けた積極財政や緩和的な金融環境の継続への期待などから、投資家のリスク選好度が強まり、円安が進行しました。2026年に入ると、日本の衆議院解散による積極財政推進への思惑などから円安が進行する場面もありましたが、為替介入の前段階とされるレートチェックを日米双方の当局が実施したとの観測などを受けて、円高が進行しました。当作成期末にかけては、米国財務長官の強い米ドル政策を支持する発言が米ドル高要因となった一方で、米ドル離れの思惑や市場予想を下回る米国の経済指標が米ドル安要因となり、米ドル円は上下に振れる展開となりました。

前作成期末における「今後の運用方針」

■当ファンド

「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資します。また、「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数（※）の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

※DBモメンタム・アセット・アロケーター指数とは、ドイツ銀行が開発した、米国の株式、米国の長期金利、米ドルキャッシュおよび金を実質的な投資対象としてアセット・アロケーションを行い、各投資対象の価格の上昇傾向の勢いに着目して、パフォーマンスが相対的に良好な投資対象の配分比率を増加させるモメンタム戦略のパフォーマンスを指数化したものです。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

ポートフォリオについて

（2025. 8. 20 ~ 2026. 2. 19）

■当ファンド

「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資しました。「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」への投資割合を高位に維持しました。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行いました。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行いました。当作成期において、実質的な投資対象の比率は下表のように推移させました。

各月末の実質的な投資対象の比率

資 産	2025年8月末	9月末	10月末	11月末	12月末	2026年1月末
米国株式	26.8%	26.8%	26.9%	26.9%	26.9%	30.0%
米国長期金利	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
金	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%	70.0%
米ドルキャッシュ	3.2%	3.2%	3.1%	3.1%	3.1%	0.0%
合 計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行いました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当作成期の1万口当り分配金（税込み）は下記「分配原資の内訳（1万口当り）」の「当期分配金（税込み）」欄をご参照ください。

収益分配金の決定根拠は下記「収益分配金の計算過程（1万口当り）」をご参照ください。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

分配原資の内訳（1万口当り）

項 目	当 期	
	2025年8月20日 ～2026年2月19日	
当期分配金（税込み）	(円)	1,000
対基準価額比率	(%)	4.80
当期の収益	(円)	1,000
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	9,849

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

(注4) 投資信託の計理上、「翌期繰越分配対象額」は当該決算期末時点の基準価額を上回る場合がありますが、実際には基準価額を超える額の分配金をお支払いすることはありません。

収益分配金の計算過程（1万口当り）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	✓ 1.05円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	✓ 5,857.45
(c) 収益調整金	1,323.97
(d) 分配準備積立金	3,666.60
(e) 当期分配対象額 (a + b + c + d)	10,849.08
(f) 分配金	1,000.00
(g) 翌期繰越分配対象額 (e - f)	9,849.08

(注) ✓を付した該当項目から分配金を計上しています。



今後の運用方針

■当ファンド

「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」と「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」に投資します。また、「モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）」への投資割合を高位に維持することを基本とします。

■モメンタム・アロケーター・ファンド（米ドル・クラス）

DBモメンタム・アセット・アロケーター指数の動きを反映した投資成果をめざして運用を行います。DBモメンタム・アセット・アロケーター指数では、4つの実質的な投資対象の一定期間のパフォーマンスを測定し、あらかじめ定めるルールに基づき、配分比率の変更を行います。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2025. 8. 20～2026. 2. 19)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	109円	0.596%	信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は18,204円です。
（投 信 会 社）	(35)	(0.194)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価
（販 売 会 社）	(71)	(0.388)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
（受 託 会 社）	(3)	(0.014)	受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0.004	その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数
（監 査 費 用）	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	109	0.600	

(注1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

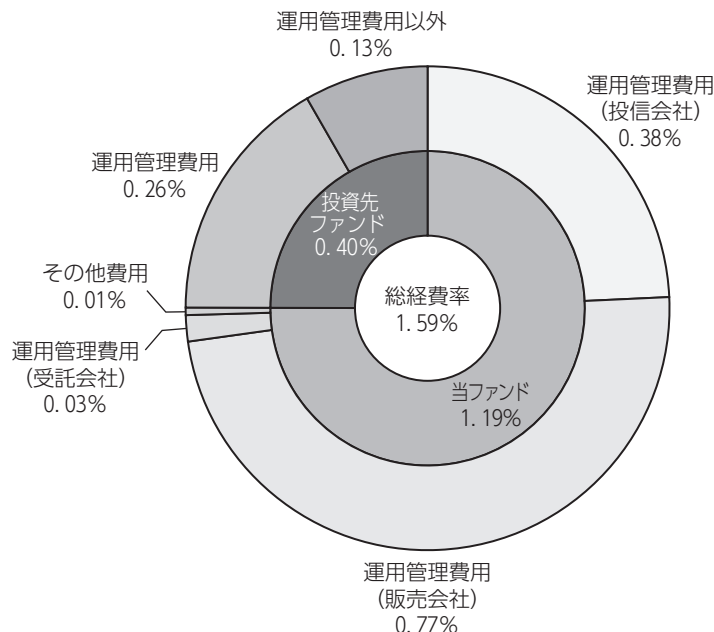
(注3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.59%です。



総経費率 (① + ② + ③)	1.59%
①当ファンドの費用の比率	1.19%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.26%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.13%

(注1) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 投資先ファンドにおいて、投資先ファンドの費用には、担保付スワップに係る費用を含みません。

(注4) 各比率は、年率換算した値です。

(注5) ①の費用は、1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注6) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注7) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注8) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■売買および取引の状況
投資信託受益証券

(2025年8月20日から2026年2月19日まで)

		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外国 (邦貨建)	ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS (ケイマン諸島)	千口 2,059.5248	千円 623,000	千口 5,764.80313	千円 1,880,000

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

(1) 当ファンドにおける当作成期中の利害関係人との取引状況

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

(2) ダイワ・マネーアセット・マザーファンドにおける当作成期中の利害関係人との取引状況

(2025年8月20日から2026年2月19日まで)

決 算 期	当 期					
	買付額等 A	うち利害 関係人との 取引状況B	B/A	売付額等 C	うち利害 関係人との 取引状況D	D/C
区分	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
公社債	1,128	269	23.9	—	—	—
コール・ローン	45,550	—	—	—	—	—

(注) 平均保有割合0.0%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ペーパーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

(3) 当作成期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

当作成期中における売買委託手数料の利害関係人への支払いはありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当作成期における当ファンドに係る利害関係人とは、大和証券株式会社です。

■組入資産明細表

(1) ファンド・オブ・ファンズが組み入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	当 期		末
	口 数	評価額	比 率
外国投資信託受益証券 (ケイマン諸島) ARGENTUM TRUST MOMENTUM ASSET ALLOCATOR FUND USD CLASS UNITS	千口 41,095.12282	千円 14,664,013	% 98.0

(注1) 比率欄は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注2) 評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	期 首	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	千口 1	千口 1	千円 1

(注) 単位未満は切捨て。

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）

■投資信託財産の構成

2026年2月19日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
投資信託受益証券	14,664,013	92.8
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド	1	0.0
コール・ローン等、その他	1,133,261	7.2
投資信託財産総額	15,797,277	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2026年2月19日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	15,797,277,285円
コール・ローン等	1,133,261,602
投資信託受益証券（評価額）	14,664,013,770
ダイワ・マネーアセット・マザーファンド（評価額）	1,913
(B) 負債	836,778,392
未払収益分配金	753,712,120
未払信託報酬	82,490,850
その他未払費用	575,422
(C) 純資産総額（A－B）	14,960,498,893
元本	7,537,121,209
次期繰越損益金	7,423,377,684
(D) 受益権総口数	7,537,121,209口
1万口当り基準価額（C/D）	19,849円

* 期首における元本額は7,732,860,156円、当作成期間中における追加設定元本額は288,358,548円、同解約元本額は484,097,495円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は19,849円です。

■損益の状況

当期 自 2025年8月20日 至 2026年2月19日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	814,030円
受取利息	814,030
(B) 有価証券売買損益	4,497,880,780
売買益	4,634,403,066
売買損	△ 136,522,286
(C) 信託報酬等	83,066,272
(D) 当期損益金（A＋B＋C）	4,415,628,538
(E) 前期繰越損益金	2,763,564,561
(F) 追加信託差損益金	997,896,705
（配当等相当額）	（ 590,482,869）
（売買損益相当額）	（ 407,413,836）
(G) 合計（D＋E＋F）	8,177,089,804
(H) 収益分配金	753,712,120
次期繰越損益金（G＋H）	7,423,377,684
追加信託差損益金	997,896,705
（配当等相当額）	（ 590,482,869）
（売買損益相当額）	（ 407,413,836）
分配準備積立金	6,425,480,979

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 収益分配金の計算過程は下記「収益分配金の計算過程（総額）」をご参照ください。

■収益分配金の計算過程（総額）

項 目	当 期
(a) 経費控除後の配当等収益	797,417円
(b) 経費控除後の有価証券売買等損益	4,414,831,121
(c) 収益調整金	997,896,705
(d) 分配準備積立金	2,763,564,561
(e) 当期分配対象額（a＋b＋c＋d）	8,177,089,804
(f) 分配金	753,712,120
(g) 翌期繰越分配対象額（e－f）	7,423,377,684
(h) 受益権総口数	7,537,121,209口

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	1,000円

- 〈分配金再投資コース〉をご利用の方の税引き分配金は、決算日現在の基準価額に基づいて自動的に再投資いたしました。

- ・分配金には、課税扱いとなる「普通分配金」と、非課税扱いとなる「元本払戻金（特別分配金）」があります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または個別元本を上回る場合には、分配金の全額が普通分配金となります。
- ・分配落ち後の基準価額が個別元本を下回る場合には、下回る部分の額が元本払戻金（特別分配金）、残りの額が普通分配金です。
- ・元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時における個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

モメンタム・アロケーター・ファンド
(日本円クラス/米ドル・クラス)

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり/為替ヘッジなし））はケイマン籍の外国投資信託「オージェンタム・トラストーモメンタム・アセット・アロケーター・ファンド（日本円クラス/米ドル・クラス）」の受益証券（円建）を主要投資対象としております。以下の内容は、直近で入手可能な Financial Statements 等から抜粋し、編集および一部翻訳したものです。

(日本円建て)

貸借対照表
2024年12月31日

資産

投資資産の公正価値による評価額（簿価 ¥11,349,364,607）	¥	16,523,269,573
現金および現金同等物		52,948,341
外国為替スワップ取引による評価損益		15,786,173
その他資産		533,854
資産合計		16,592,537,941

負債

未払：		
清算済みスワップ取引		185,287,086
専門家報酬		11,705,502
管理会社報酬		3,928,466
運用会社報酬		2,002,240
名義書換代理人報酬		94,129
負債合計		203,017,423

純資産

	¥	16,389,520,518
日本円クラス	¥	3,584,325,284
米ドル・クラス		12,805,195,234
	¥	16,389,520,518

発行済み受益証券

日本円クラス		28,410,578
米ドル・クラス		55,826,446

受益証券1口当り純資産額

日本円クラス	¥	126.162
米ドル・クラス	¥	229.375

損益計算書

2024年12月31日に終了した年度

投資収益	
受取利息	¥ 3,802,739
投資収益合計	<u>3,802,739</u>
費用	
運用会社報酬	25,756,153
専門家報酬	20,476,999
支払利息	16,410,966
管理会社報酬	15,542,028
名義書換代理人報酬	2,062,040
受託会社報酬	1,658,141
その他費用	1,620,516
費用合計	<u>83,526,843</u>
純投資損益	<u>(79,724,104)</u>
実現損益および評価損益の変動：	
実現損益の内訳：	
ストラクチャード商品への投資	2,153,573,845
外国為替スワップ取引	(710,349,940)
外国為替取引および外国為替先渡取引	6,043,372
純実現損益	<u>1,449,267,277</u>
評価損益の変動の内訳：	
ストラクチャード商品への投資	2,564,833,570
外国為替スワップ取引	(16,707,086)
外国為替換算および外国為替先渡取引	976,103
評価損益の純変動	<u>2,549,102,587</u>
純実現損益および評価損益の純変動	<u>3,998,369,864</u>
運用の結果による純資産の純増減	<u>¥ 3,918,645,760</u>

ダイワDBモメンタム戦略ファンド

投資明細表 2024年12月31日

ストラクチャード商品

銘柄名	受益証券数	純資産に 占める割合	公正価値による 評価額	
Deutsche Bank Momentum Asset Allocator Index* － トータル・リターン・スワップ	64,482	100.82%	¥	16,523,269,573
ストラクチャード商品計 (簿価 ¥11,349,364,607)				16,523,269,573
投資資産計 (簿価 ¥11,349,364,607)			¥	16,523,269,573

*当ファンドはDeutsche Bank A.G.、ロンドン支店との間で締結したファンドの残高と同金額の元本のパフォーマンス・スワップを通してDeutsche Bank Momentum Asset Allocator Indexと同様のエクスポージャーを有しています。

日本円クラス外国為替スワップ取引

買い	取引相手	想定元本	満期日	売り	想定元本	純評価損益	純資産に 占める割合
J P Y	Deutsche Bank A. G.	3,596,521,193	1/31/2025	U S D	(22,843,763)	¥ 15,786,173	0.10%
外国為替スワップ取引による評価損益						¥ 15,786,173	
合計						¥ 15,786,173	

用語集:

J P Y	日本円
U S D	米ドル

<補足情報>

当ファンド（ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし））が投資対象としている「ダイワ・マネーアセット・マザーファンド」の決算日（2025年12月9日）と、当ファンドの決算日が異なっておりますので、当ファンドの決算日（2026年2月19日）現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンドの組入資産の内容等を掲載いたしました。

■ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの主要な売買銘柄

公 社 債

(2025年8月20日から2026年2月19日まで)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
1350国庫短期証券 2026/3/23	489,184		
1331国庫短期証券 2025/12/15	439,529		
1333国庫短期証券 2025/12/22	199,768		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

下記は、2026年2月19日現在におけるダイワ・マネーアセット・マザーファンド（647,806千円）の内容です。

(1)国内（邦貨建）公社債（種類別）

区 分	2026年2月19日現在						
	額 面 金 額	評 価 額	組入比率	う ち B B 以 下 組 入 率	残 存 期 間 別 組 入 比 率		
					5 年 以 上	2 年 以 上	2 年 未 満
国債証券	千円 490,000	千円 489,733	%	%	%	%	%
			75.4	—	—	—	75.4

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2)国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

2026年2月19日現在						
区 分	銘 柄	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
国債証券	1350国庫短期証券	%	千円 490,000	千円 489,733	2026/03/23	
		—				

(注) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

運用報告書 第14期 (決算日 2025年12月9日)

(作成対象期間 2024年12月10日～2025年12月9日)

ダイワ・マネーアセット・マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

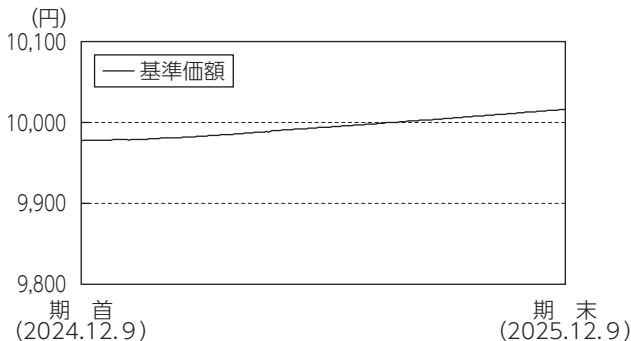
運用方針	安定した収益の確保をめざして安定運用を行ないます。
主要投資対象	円建ての債券
株式組入制限	純資産総額の10%以下

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■当作成期中の基準価額と市況等の推移



年 月 日	基準 価 額		公 社 債 組 入 比 率
	騰 落 率		
	円	%	%
(期首)2024年12月9日	9,977	-	56.7
12月末	9,978	0.0	60.5
2025年1月1日	9,980	0.0	60.5
2月末	9,982	0.1	60.4
3月末	9,985	0.1	58.7
4月末	9,989	0.1	65.8
5月末	9,992	0.2	71.2
6月末	9,996	0.2	60.0
7月末	10,000	0.2	65.2
8月末	10,003	0.3	58.5
9月末	10,007	0.3	70.1
10月末	10,011	0.3	70.1
11月末	10,015	0.4	55.2
(期末)2025年12月9日	10,016	0.4	55.6

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）および債券先物を除きます。
 (注3) 当ファンドは、安定した収益の確保をめざして安定運用を行っており、ベンチマークおよび参考指数はありません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：9,977円 期末：10,016円 騰落率：0.4%

【基準価額の主な変動要因】

利息収入により、基準価額は上昇しました。

◆投資環境について

○国内短期金融市況

日銀の利上げを受けて、短期金利は上昇しました。

◆前作成期末における「今後の運用方針」

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローン等による運用を行う方針です。

◆ポートフォリオについて

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行いました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

流動性や資産の安全性に配慮し、短期の国債やコール・ローンによる運用を行う方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	-円
有価証券取引税	-
その他費用	-
合 計	-

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2024年12月10日から2025年12月9日まで)

国 内	買 付 額	売 付 額	
		千円	千円
国債証券	2,268,033	539,818 (1,320,000)	

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) ()内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。
 (注3) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2024年12月10日から2025年12月9日まで)

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
千円		千円	
1331国庫短期証券 2025/12/15	439,529	1277国庫短期証券 2025/3/31	299,862
1277国庫短期証券 2025/3/31	319,885	1284国庫短期証券 2025/5/7	79,994
1314国庫短期証券 2025/9/22	199,818	1289国庫短期証券 2025/5/26	59,985
1333国庫短期証券 2025/12/22	199,768	1266国庫短期証券 2025/2/10	49,991
1312国庫短期証券 2025/9/16	189,801	1290国庫短期証券 2025/6/2	49,984
1322国庫短期証券 2025/11/4	179,822		
1306国庫短期証券 2025/8/18	129,931		
1296国庫短期証券 2025/6/30	129,880		
1297国庫短期証券 2025/7/7	99,919		
1290国庫短期証券 2025/6/2	99,916		

(注1) 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれておりません）。
 (注2) 単位未満は切捨て。

ダイワ・マネーアセット・マザーファンド

■組入資産明細表

(1) 国内（邦貨建）公社債（種類別）

作成期	当 期			未 期			
	額面金額	評 価 額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
区 分					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	640,000	639,935	55.6	-	-	-	55.6

(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注3) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(2) 国内（邦貨建）公社債（銘柄別）

区 分	銘 柄	当 期		未 期	
		年 利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日
国債証券	1331国庫短期証券	%	千円 440,000	千円 439,968	2025/12/15
	1333国庫短期証券	-	200,000	199,966	2025/12/22
合計	銘柄数 金額	2銘柄	640,000	639,935	

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2025年12月9日現在

項 目	当 期	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	639,935	55.6
コール・ローン等、その他	511,912	44.4
投資信託財産総額	1,151,847	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年12月9日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	1,151,847,919円
コール・ローン等	511,912,790
公社債(評価額)	639,935,129
(B) 負債	-
(C) 純資産総額(A - B)	1,151,847,919
元本	1,149,984,969
次期繰越損益金	1,862,950
(D) 受益権総口数	1,149,984,969口
1万口当り基準価額(C / D)	10,016円

* 期首における元本額は406,872,006円、当作成期間中における追加設定元本額は3,167,347,149円、同解約元本額は2,424,234,186円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：

ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジあり）	1,952円
ダイワDBモメンタム戦略ファンド（為替ヘッジなし）	1,908円
ダイワ/パリュール・パートナーズ・チャイナ・イノベーター・ファンド	1,978円
S & P 500（マルチアイ搭載）	53,128,430円
iFreeETF S & P 500ダブルインバース	1,096,849,682円
ダイワ・スイス高配当株ツインα（毎月分配型）	1,019円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,016円です。

■損益の状況

当期 自2024年12月10日 至2025年12月9日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	3,312,570円
受取利息	3,312,570
(B) 有価証券売買損益	△ 102,481
売買益	288
売買損	△ 102,769
(C) 当期損益金(A + B)	3,210,089
(D) 前期繰越損益金	△ 915,830
(E) 解約差損益金	2,807,340
(F) 追加信託差損益金	△ 3,238,649
(G) 合計(C + D + E + F)	1,862,950
次期繰越損益金(G)	1,862,950

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

《お知らせ》

■運用報告書にかかる信託約款の条文変更について

2025年4月1日付の投資信託及び投資法人に関する法律の改正により、運用報告書にかかる規定が変更されたため、運用報告書にかかる信託約款の条文を以下のとおり変更しました。（下線部を変更）

<変更前>

（運用報告書）

委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条に定める運用報告書を交付しません。

<変更後>

（運用状況にかかる情報）

委託者は、投資信託及び投資法人に関する法律第14条に定める事項にかかる情報を提供しません。